
華恋

李祢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

華恋

【Nコード】

N8017G

【作者名】

李祢

【あらすじ】

校内で人気の高い、末永君に、恋をして・・・。

（前書き）

面白い内容になってますので、ぜひ呼んで見て下さい。

春

この春、私は、高校生になった。

苦手な勉強も沢山してやっと、第一希望の高校に入れたのだ。

「李祢！遅刻するわよ。」

私の名前は、神崎李祢。いつも、お母さんが、私を起こす事から1日が、始まる。

「はい。着替えるからまってー。」

私は、言った。

「もー。李祢はいつもそうなんだから。少しは、自分で起きなさいよ。」

お母さんは、飽きた様に言った。

着替えが終わって、下に降りた。

「いただきます。」

私は、そう言っでご飯を食べた。

食べ終わって、時間を見ると、何と8時をさしていた。

「やっぱい。遅刻だー！いつてきまーす。」

私は、急いで家を出て、学校へ向かった。

学校に行く途中、大きな桜の木が立っていた。

「わあー。きれー。」

つて、見とれてる場合じゃないし！結局私は遅刻した。

恋

昼休みになり、私は、いつもどうり友達の、二ナと花梨と一緒に屋上に行った。何で、屋上かって？それは、話すのに最適だから。涼しいし、ここなら誰にも、邪魔されずに、ゆっくり話せるから。話していると、校内で、人気が高い、末崎博人が、友達5人連れて、屋上に入ってきた。末崎君が、廊下を通ると、他の女子がきゃーきやーと、騒ぐ。

それぐらい、末崎君は、人気。そんな、末崎君に、私は、恋しちゃったんだ……。

告白

放課後、私は、末崎君を屋上へ呼んだ。そして、私は、こう言ったんだ。

「私と、付き合ってください。」

しばらく、末永君は、びっくりしていたが、

「俺何かで良かったら、喜んで。」

それから、何か、楽しいことが、起こりそうなかん

続く

（後書き）

この、内容は、フェクションです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8017g/>

華恋

2010年12月5日15時25分発行